

第42号

2017年12月1日

○発行  
鳥取市立川町5丁目417番地  
鳥取子ども学園後援会  
電話 (0857) 22-4206  
http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/

○振込口座  
郵便振替 01490-9-9106  
題字 尾崎徳之助

# 鳥取子ども学園 学園だより



## クリスマス 子どもを中心に、一人一人を 大切に育んできた鳥取子ども学園

鳥取子ども学園 園長 田中 佳代子

鳥取子ども学園に勤めさせていただいて40年。4月から施設長を引き継ぐことになり、少しでも子どもたちや職員の助けが出来るはと模索の毎日を過ごしています。先日出張移動中のごです。季刊誌「児童養護」を読んでいたのですが、「ローマは一日にしてならず」という言葉がふと私の頭をよぎりました。「古代ローマ帝国の繁栄は一朝一夕にできあがったものではない。大きな事業は長年の努力なしには完遂しない」皆さんもよく御存じの格言です。思わず自分に重ね合わせ、勤めた頃はがむしゃらなだけで子どもと歯車がかみ合わず路頭に迷ったことが幾多もあつた時代から、子ども達から多くの事を学ばせてもらい、なんとか子どもと共に歩み出来るようになるには長い年月を費やしたことを回想しました。

そして鳥取子ども学園を頭に浮かべた時、一一年という長い歩みを創設者の「愛」(一人一人を大切にする)の精神を絶やすことなく、今に繋いでいる先人達。そして今も努力を続けている役員一同。そして何よりも、過酷な生い立ちの中でも一生懸命生きまうとしてくれる子ども達。鳥取子ども学園には多くのドラマが積み重ねられています。勤めた頃は保育園と児童養護施設しかなかった法人が、今は時代のニーズに合わせて数々の事業

を手がけ、乳児院から自立援助ホーム・退所児童等アフターケア事業と「人生まる抱え」の体制を作り、一人一人の寄り添いに合わせて、児童心理治療施設・児童思春期外来中心の診療所・二一ト引きこもり就労支援事業・障がい者支援事業・里親支援等の事業も行う法人へと進歩してきました。その中心にいたのはいつも子どもであり、子どもたちが道しるべ役を果たしてくれていました。

1961年小舎制の第一歩を踏み出し、1973年には完全小舎制を実現する歩みのなか、家庭的養育が子どもたちに安らぎを与え、将来家庭を持つであろう時のモデルとして肌で感じて欲しいという願いのもと取り組んできた法人の取り組みに敬意を感じています。6〜7人の子どものと3〜4人の職員との暮らしのなかで、生活を大切にし、ホームが子どもたちの安らぎの場となるよう一人一人を大切に育んでいるのが学園です。大人に対して信頼をなくし入所して来る子どもたちに懇願の思いで寄り添っています。一筋縄ではないのは子どもたちの背負った重荷があまりにも重すぎるからと職員同士励ましあひながら子どもたちを見守っています。

今年、8月2日付で、「新しい社会的養育ビジョン」が発表されました。その趣旨は、施設養育を否定する視点から「ビジョン」が組み立てられていると言っても過言ではない内容となっております。特に乳児院に至っては、地域支援にのみ重点を置き長期入所はあるまじき、という内容です。全国には、乳児院・139箇所、児童養護施設・603箇所があり、すべてが当園のような体制にはなっておりませんが、当学園も学ばせていただきたいようならばらしい養育をされている施設も数多く在ります。施設が持つ限界も認めますが、将来的に70パーセントを里親委託とする政策はあまりにも無謀としか言えません。すべてとは言いませんが、里親宅を転々とする子どもの姿が目につかふ時、子どもの人権が本心に守られる政策ではないと危惧しています。当法人理事長(前全国児童養護施設協議会会長)は、「日本型社会的養護の構築」を唱えています。子どもの人権を守るためにはどういった取り組みが必要なのか、今こそ真剣に論議していただきたいと切に願っています。子どもを中心に、一人一人を大切に育んできた鳥取子ども学園が長年守り続けて築き上げた事業の数々を、社会のニーズに合わせて取組方を変えなければならぬとしても、その精神は守り続けたいと思います。

少子化の影響もありどの業界においても人手不足が叫ばれる昨今、社会的養護の分野でも人材確保は喫緊の課題ですが、当法人の理念に賛同し、当法人を目指して職員になる人もいます。地域の方々・関係機関の皆さまにもご理解・ご支援いただき、子どもたちや職員を見守り支えてくださっていることにも感謝しております。人を育てるのはやはり人です。子どもたちが、一人でも信頼できる人、希望となる人(職員に限られません)に出会い歩めることを祈っています。今後とも当法人へのご理解・ご支援を宜しくお願い致します。

法人本部

理事長 藤野 興一 記

この度、鳥取こども学園長、全国児童養護施設協議会長並びに日本キリスト教児童福祉連盟理事長を退任し、6月22日の理事会で、社会福祉法人鳥取こども学園常勤理事長となり、やってきたことを以下のとおり報告します。

① キリスト教社会事業研究会（木曜会）を定例化しました。

キリスト教社会事業を次の世代に引き継ぐことは私に課せられた大きな課題です。

吉田松陰の松下村塾は当時、全国から優秀な人材を集めたのではなく、近所の下級武士の子弟を集め「無私の志」を同志的学びの中で醸成しました。

2017年6月29日を第1回として、毎月一回木曜日の18時～19時30分に開催。本田哲郎著「釜ヶ崎と福音」の輪読会として同志的学びの場としています。

② 本部事務所増築工事。防球ネット設置等グラウンド整備。など環境整備事業を実施しました。

事務所増築工事については、設計監理（有）赤山建築設計事務所により、2017年7月18日一般競争入札、契約額1814.4万円にてこおげ建設株式会社が落札、7月21日着工し、予

定通り11月18日に完成しました。

防球ネットについては、本田技研労働組合様からの寄付に2名の理事からの寄付金200万円を加え、グラウンド整備及び入り口門扉整備、排水管つまり修繕工事等と共に懸樋工務店が施工しました。

③ 社会福祉法改正に対応し、全事業所のトータルデザインと法人事務局体制強化を図りました。

隣接の三洋跡地に大型店舗ラムーが建設（10月23日着工、来年5月オープン）されることに伴う境界確認環境整備等折衝など行いました。

米子市を含む14事業所、210人を超える職員体制にもかかわらず、バラバラに運営されていた嫌いもあり、改正社会福祉法の下で、法人として一体的運営を図ることになりました。

④ 8月2日決定の空論「新ビジョン」の現実路線への転換のために活動。

突然！特別養子縁組を5年で倍増。小学校入学前の子どもについては、原則施設入所停止。乳児院は入所施設としての役割を縮小し里親・養父母支援へ移行。3歳未満は5年以内、それ以外の未就学児については7年以内に里親委託率を75%以上、学童期以降は10年以内50%以上とする。とする数値目標が掲げられました。

欧米諸国が施設を無くして里親に移行させた結果、子どもの「里親たらいまわし」が横行。自尊心低下や絶望した若者が、犯罪に走り、治安は乱れ惨憺たる状況をもたらしました。日本は、その道を選ぶべきではありません。元々、全乳協は「乳幼児総合支援センター」全養協は「日本型社会的養護」を提唱してきました。施設の小規模ケアは一般家庭より家庭のモデルになりうるし、施設の専門性を里親も含む地域家庭支援の拠点として活用すべきだと主張してきたのです。

⑤ 「新ビジョン」の意図がどうであれ、この数値目標は乳児院や児童養護施設をつぶすこととなります。早急に手立てを！

新ビジョンを先行的に実施している鳥取こども学園も例外ではなく、里親委託や養子縁組、家庭復帰を進めた結果措置児童は減って一時保護やショートステイ、通所などが増え、地域支援のための回転が速くなります。ホームの人数を減らせば、直ぐに90%暫定になり、経営は苦しくなります。

暫定定員廃止が90%暫定を60～80%にすること。独自の職員と設備を備えたショートステイなどを含む一時保護所の公認設置。児童家庭支援センターの措置費運営。などの手立てが緊急に必要です。

⑥ 子育て王国鳥取県に「日本型社会的養護」を構築するために法人挙げて取り組まします。引き続きご支援ください。

施設長・副施設長の交代に伴い、4月から新しい体制づくりに取り組んで半年余りが過ぎました。従来から行っていた週2回の養護朝会を丁寧に行い、子ども達の問題をホームだけで抱え込まないよう、各専門職も交えて子どもへの理解を深めたり職員の重荷を少しでも軽減出来ればと努めています。ホーム職員の報告の中に、子どもに対する熱い想いを感じる度に感動と敬意を感じています。

児童養護施設 鳥取こども学園

園長 田中 佳代子

施設長・副施設長の交代に伴い、4月から新しい体制づくりに取り組んで半年余りが過ぎました。従来から行っていた週2回の養護朝会を丁寧に行い、子ども達の問題をホームだけで抱え込まないよう、各専門職も交えて子どもへの理解を深めたり職員の重荷を少しでも軽減出来ればと努めています。ホーム職員の報告の中に、子どもに対する熱い想いを感じる度に感動と敬意を感じています。

昨年度・今年度と定員一杯にはなっていませんが、進学・就職を前にして路頭に迷う子や特性の強い子どもがいて、職員はけっこう大変な毎日を送っています。そんな中でも、それぞれのホームで行事を企画して旅行に出かけたり、遊園地に行ったりと、子ども達と楽しく過ごす時を大切にしてくれています。ボランティアの招待や企画行事にも積極的に参加する子どももいて、田植えや稲刈り、お菓子作り等いろいろな体験をさせて頂いています。行事を通じて多くの大人との触れ合いの時を持つことも成長の肥やし

となつていようともしも思い、感謝です。

10月20日、中部地震一年のイベント参加の為に熊本県のくまモンが来鳥し、本園にも表敬訪問してくださいました。60人余の子とも職員がくまモンと楽しい時間を過ごし、伸び伸びと自分を表現している子ども達を見て、また嬉しくなりました。年と共に

に感傷的に感じる事が増えたなどと思う私ですが、今後も職員と一緒に子ども達に寄り添っていきたく思います。



地域小規模児童養護施設  
くまの家の  
いろどり

児童指導員 妹尾 美 希

地域小規模児童養護施設いろどりに異動になって10ヶ月。職員・こどもの入れ替わりもありはたばたしていますが、日々こどもの関わりは途切れることなく、慌ただしい毎日を送っています。その中にくまの成長を間近に見るよう

が楽しみでもあります。年齢に応じてこどもとの接し方は異なり、思うように行かないこともあります。職員としても試行錯誤をし、何が一番なのか考えて実行していく。いつの間にかそれらが知らず知らずの間にやりがいへと変わっていくことを実感しています。

いろどりに来て感じることは、まず地域の中で生活をしていくということだと思います。本園では体験できなかった近所付き合いがあるいろどりに来てスタートしました。私が来たのは記録的な大雪が降ったところで、前の家も横の家も雪かきを持って敷地内、家の前の道路の除雪に当たっていました。その時、自分の家だけをしているのではだめだと思い、近所の人と一緒に道路の除雪に当たりました。お互いに助け合うことで近所との付き合いは少しずつ出来ていくのだと感じましたが、

付き合いが出来たからと言ってそこで終わりではなく、日々の挨拶だったり回覧板を回したりする中で、少しでも話をすること、より深めていくことができるのだと思います。いろどりを知ってもらうと同時に職員やこどものことを知ってもらう必要もあるのかなと感じます。まだ課題はありますが、色々なことに参加し発信していけるよう努めていきたいです。

本園の敷地から出て生活することは、本園とは違う楽しみ・喜び・不安があることを味わいました。地域の中で生活しているのだと実感する反面、本園とのつながりが薄れたのでは？と不安になる気持ちも芽生えてきました。離れ孤島とも称される地域小規模児童養護施設。その中で本園とのつながりを持つことの必要性、孤立化を防ぐことの大切さを考えることがあります。

地域小規模児童養護施設は3ヶ所あり、それぞれの家が月に1回集まり情報共有をしたり、各家から別の家に研修に行ったりする等、連携を図っています。しかし、小規模内の実態が外に出にくい、外からも覗きににくい、つながりを持つ、孤立化を防ぐためにも今困っていることや思っていることを本園に伝えていく必要があると感じています。

日々迷ったり悩んだり困ったりしていますが、それ以上に楽しく嬉しい気持ちも多く、色々な感情が出てきます。こどもも沢山のことを経験し一緒に成長できることはどこにいても同じなのかなと思います。その中で地域小規模児童養護施設だからこそできる体験や経験をこどもたちと積み重ねていき、いろんな可能性を広げていきたいと思います。

乳 児 院  
鳥取こども学園乳児部

たのしいんだもん！  
今年も初体験がいっぱい

企画) 夕涼み会(東部里親会さんとのコラボ

乳児部も開設11年目を迎え、今までに50名を超える子ども達が巣立っていきました。家庭復帰し親もとへ帰っていった子ども、里親さんへ繋がった子ども、児童養護施設へ移行していった子どもと生



夕涼み会

活の場は様々です。子どもたちにとって人間形成の土台作りに最も大切な時期を、我々職員と共に過ごし育ったことは今に繋がっているという想いで日々目の前の子どもたちと向き合っています。乳幼児期の記憶が子どもたちの心の中にどれくらい残っているかわかりませんが、子どもたちを招待して、何か企画できれば……ということでも今回初の夕涼み会を開催させて頂きました。急な企画だったこともあり、今回は、里親さんにも協力いただき、法人内に在籍するOB・OGを中心に乳児部へ招待することとしました。射的や魚釣り(お菓子釣り)、ヨーヨーなどのゲームや竹を使つての本格的なそうめん流し、すいか割りなど、楽しいひと時を子どもたちと過ごしました。当日、賑やかに楽しんでくれている子どもたちの表情がとても印象的でした。初めてのことで行き届かない部分もたくさんありましたが、来年度も開催の方向で検討し、今後の恒例行事にできればと思っています。里親さんをはじめ、企画・運営にご協力頂いた皆様、大変ありがとうございました。

■海水浴(わくわくタイム2歳児)

8月4日、わくわくタイムのメンバーで大谷海水浴場へ遊びに行ってみました



海 水 浴

た。お天気も良く、波も穏やかで、海水浴にはピッタリの日和でした。みんな最初は海に入ることに緊張していたけれど、自分のペースで少しずつ波に慣れていく子どもや、中にはボードに乗って波の上をチャップチャップと進んで楽しむ子どもも、砂遊びが楽しい子どもなど、それぞれが自分たちの楽しみ方で海を満喫していました。そのあとはみんなでバーベキュー。いっぱい遊んでお腹ペコペコ。早く食べたいのに、なかなか火が付かない……というアクシデントにもみまわれましたが、それも良い体験!いざお肉が焼けると熱そうにしながらも、おなが

杯になるまでモリモリと美味しく食べていました。ゆっくり海を眺めながら食べるご飯は特別おいしく感じたかな? みんなで日が沈むまで楽しんで帰りました。

■水遊び(1歳児)

鳥取市内の真教寺公園へ水遊びに出掛けました。この年齢は発達の周りに意識がいく時期です。同年齢児との交流を意欲的に持ち、全身で五感に刺激を受けつつ思いっきり遊びました。

公園に着くと、噴水から出る水をみて大喜びで遊びだす子ども、怖くて職員に抱っこを求めてくる子どもと様々でした。水がかかる度に「きゃー、きゃー」と楽しそうに遊ぶ友だちをみて、怖がっていた子どももいつの間にか一緒になっ



水 遊 び

て大はしゃぎ。ひとりの子どもが遊具で遊びだすと、つられてみんなが遊具へ。夏の暑さにも負けず、たくさん遊びました。お昼は近くのパン屋さんに行き、動物の形をしたパンやキャラクターパンなど、好きなパンを子どもたちが喜び喜んでたくさん食べました。大人が驚くほどの食欲でした!

■手作りバイキング(食育について考える会 通称乳児部TKG)

9月7日の夕食時に乳児部初の試みで、バイキングを行いました。乳児部では現在、10名の子どもたちが3つのホームに分かれて生活しています。普段はそれぞれのホームで食事をしており、他のホームの子どもたちと一緒に食事をするということがなかなかないため、3ホーム合同で食事を楽しむこと・子どもたちに選ぶ楽しさを経験してもらいたいという職員の思いでバイキングを企画しました。今回は子ども・職員合わせて30名が参加し、楽しく食事をする事ができました。子どもたちにとっては、並んでいる料理のなかから自分の食べたいメニューを選んで取るという経験が初めてで、「これにしようかなあ」とも嬉しそうに選んでいました。おかわりしている子どももあり、みんながいつ



バイキング

も以上にとてもよく食べました。  
またひとつ、子どもたちにとって食に  
まつわる楽しい経験が増えました！

■大山秋みつけ（鳥取県自然体験活動推  
進事業）

今年度は乳児部初の行事が盛りだくさ  
ん。先日は「秋みつけ」と称し『大山青  
年の家』へ出かけました。この日は久々  
の秋晴れ！総勢33名を乗せた大型バス  
は子どもたちにシヨベルカーやタンク  
ローリーなど働く自動車や青い海などい  
ろいろな景色を見せながら快適に走って  
くれました。大山では職員（12名）が3  
班に分かれ新わりから始まる野外炊爨を  
スタート。メニューはジャンバラヤ。出

来上がるまでの間、子どもたちは他の職  
員たちとドングリやキノコを探ったり、  
森の中でかけっこしたりとそれぞれの  
「秋みつけ」を楽しんでいました。いつ  
もより遅めのお昼ご飯だったからか、い  
いえきつと美味しいジャンバラヤだっ  
たから。どの子どももどの職員もたくさん  
食べました。お腹も心も大満足。帰り  
のバスの中はスヤスヤと寝息があちらこ  
ちらで聞こえてきました。また、みんな  
で行こうね。  
楽しい企画を提供して下さいました鳥取県  
教育委員会の皆様に感謝申し上げます。  
ありがとうございました。



秋 み つ け

児童心理治療施設  
鳥取子ども学園希望館

二年経ちました

希望館を改築して、二年が経ち希望館  
の各ホームのホーム長が感謝を込めて、  
今の気持ちを書きました。

若葉から樹木へ

わかばホーム  
門 脇 弘 道

改築前の希望館を知らない子どもが半  
数を超えました。新しい建物で快適に過  
ごせることが当たり前になっているわか  
ばっ子を見ることも当たり前となってき  
ました。落ち着いて過ごすことで学校や  
社会で生き活きと頑張っているわかばっ  
子達は力強く、素晴らしいと改めて感じ  
ています。

わかばっ子達は、リビングでテレビを  
観て、ベッドでマンガを読み、「コロコロ  
ダンダン」と過ごしています。職員が「宿  
題しなさい」「お風呂入ってよ」と言っ  
ても「はーい」と返事をするのみでなか  
なか動きません。30分以上コロコロ。相  
当、居心地が良いのでしょう。ただ、朝

になるとしつかり起き「行ってきます。」  
と登校します。学校ではとても頑張っ  
ています。ホームで充電が満タンなの  
でしょう。

改築前の希望館が悪かったわけではあ  
りません。古く不便な部分もありまし  
たが、子ども達と職員が協力し合って生  
活をしていました。便利さが子どもの成長  
に繋がるのではなく、子どもの居場所と  
しての心地良さが成長に繋がるのだと思  
います。今の心地良さは最高です。わか  
ばっ子達は、ホームで心地よく過ごし、  
学校や社会に採られながら、グングン成  
長し樹木に近づいています。





変わらないうでいるよう

こぼとホーム

岡 本 麻 美

2015年1月初め、当時一緒に生活をしてきた子ども達と解体直前の旧希望館のホームの壁に名前を刻み、古い建物に「ありがとう」と言ってお別れをして早二年。引越した後、こぼとから四人の子ども達が次のステップへ進んでいきました。自立に向け県外へ就職、進学をした子、家庭復帰した子がいます。様々な理由で希望館へ辿り着き、縁あってこぼとホームで出会い、沢山のことを乗り越え笑顔で未来へと進む子どもの姿は、本当に嬉しく誇らしくあります。新希望館に来て、子どもにも大人にも沢山の出会いと別れがありました。時折、元気な姿を見せに帰ってきてくれるOBに会うと、誰にとっても「ただいま」と言ってお別れ場所であり続けたい、そしていつまでも「おかえり」と迎えられるホームでありたいと改めて感じています。建物は変わっても「こぼと」であり続ける大切さを日々感じながら子ども達と生活をしていきたいと思えます。

感謝の気持ち

しらゆりホーム

山 本 奈穂子

「最初ここ来た時、暗いけ怖かったし。」当時小学3年生だったAちゃんは、ニコニコと笑いながら、以前の建物の印象をそう話してくれました。暗くて恐いイメージだった希望館。子どもの心のケアを支援すべく希望館で、子どもに恐いイメージを抱かせてしまっていたこと、「ごめんね」としか答えようがありませんでした。

あれから2年。新しい建物になり、子どもの生活スタイルも変わりました。リビングが広くなり、テーブルスペースに加えて畳の間が出来たことで、皆が集う時間が増えました。賑やかな子ども居れば、人間関係が苦手な子どもも居る張の強い子や、テレビが見たくても、なんとなくリビングに出てこれない子どもも居ます。空間が広がった事で、他者を必要以上に意識する事なく過ごせるようになった様です。窓から差し込む光の中で、穏やかな雰囲気子どもが何気感じられる空間が出来たことに感謝の気持ちです。

新しいのぎくホーム

のぎくホーム

松 本 光 世

現在のぎくホームにいる子で古い希望館を知っている子は3人います。そのうちの一人が新しい希望館になって嬉しいことを書いてくれました。「私が、新しい希望館になって嬉しかったことは、各部屋が広くなったことです。前はリビングも狭くて、使いづらかったけど、今は広々していてみんなで遊んだり、ダンスをすることもできます。あと、今の希望館は色々な工夫がしてあります。夜は廊下の下の方に人が通るとライトがつかまします。だから夜、トイレに起きても怖くありません。台所は、カウンターキッチンになったので、料理をしている大人と会話ができます。子ども同士も大人とも会話が増えて嬉しいですよー」(中一女子)。子どもが快適に生活し、喜んでるのが嬉しいのです。これからも大切に使用して、外見だけではなく、中身も良いホームにしていけるよう子ども達と一緒に笑ったり泣いたりしながらやっていこうと思えます。

希望館初の男女混合ホーム  
「やつき」

さつきホーム

山 本 詩 織

希望館の改築と同時に新しく開設されたさつきホームです。建物は二階建ての一軒家です。この2年半の間に、15人ほどの子どもたちがさつきホームで生活をしましたが、さつきホームから巣立ったOGは、以前の建物と比べ、「何より建物がきれいで、光の入り方が違う。雰囲気がいいから、ゆっくり落ち着いて生活ができた。2階の小窓から1階の様子が見えるのがいい。自室の鍵を持つ生活で、一人暮らしの練習ができた。」と、退所前の不安になる時期を、きれいで温かい雰囲気の建物で過ごせたことを喜んでいました。また、希望館の中で唯一の男女混合ホームで、今までになかった男の子と女の子が一緒に生活を送る空間は、微笑ましく思える場面が多々あります。年長の女子が弟の様に小さい子の面倒をみてくれ、学習や就職準備などが安心して生活できている様子が伺えます。まだまだ間もないホームですが、子どもたちと共に、ホームとしても成長していきたいと思えます。

保育所  
**鳥取みどり園**

★ほし組 (5歳児)

『ころをひとつに』をスローガンに、37名全員で参加した保育園最後の運動会。

たくさんさんの競技に参加し、最後に金メダルをもらった子ども達。よほど嬉しかったのか。

「さすがに……お風呂に持って入ったらいけないよね」と言っほど肌身離さず持っていた子もいたとか……。

みんな、よくがんばったね★

★つぎ組 (4歳児)

体を動かす遊びが大好きな子ども達。

中でも、愛してやまないのが『転がし中当て』。四角い枠の外からボールを転がし、中の人に当てる。最後まで中に残った人が勝ちというゲームです。この遊びを4月からほとんど毎日行っています。朝、子どもたちと顔を合わせると「おはよう」よりも先に「先生ー今日中当てできる?」と尋ねたり、中当てるに行く時には、「やったー!」と、現在でも毎回

全力で喜んでいきます。

毎日繰り返し経験することで、子ども達の身のこなしやボールを転がす力・体力など、すっかりたくましくなりました。今後も皆で楽しみながら、体づくり・体力づくりをしていきたいと思えます。

★にじ組 (3歳児)

♪トンボのメカネは水色めがね♪♪と、歌いながらトンボを追いかけるとも達。トンボが友だちの頭に止まったのを見て

「ドラえもんのおケコプターみたい〜」  
気持ちよく空を飛びたいね☆

★つさぎ組 (2歳児)

♡トイレでの出来事♡

隣のクラスの保育士に  
「先生ーぼく、お兄ちゃんパンツ! (布パンツ) 先生は何パンツ?」  
と、尋ねたA君……。布パンツで日中過ごせるようになり、自慢したかったようです。

♡おままごとでの出来事♡

3〜4人のお友だちと一緒におままごとをしていたBちゃん。いつの間にか保

育者になりきって給食の前のお祈りをしていました。

B君「お口の体操をしましょう!」  
保育士「あってるあってる……」

B君「お祈りをしましょう……」  
給食今日もきた〜♪

保育士「えー?」

\*本日の歌詞は『おいしい給食今日もまた』です。毎日おいしい給食だから、そんな歌詞になったのかな? (笑)

★りす組 (1歳児)

大好きな車を見ようとバス通りを散歩していると……。

保育士「何色のバスが来るかなあ〜」

Kちゃん「ピンク〜!」

しばらく行くと遠くからバスがーみんなが注目する中バスが通過すると……。

A君「……青だったね……。ごめんね……。」

Kちゃんの思いをかなえてあげたかったかな? 優しい一言でした。

★ひよこ組 (0歳児)

クラスの中で一番小さい月齢の友だちが泣いていると、心配そうに顔を覗き込んで、顔をヨシヨシする姿が……♡

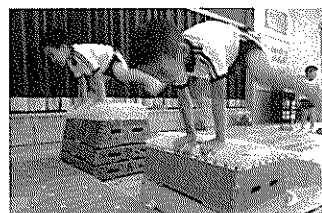
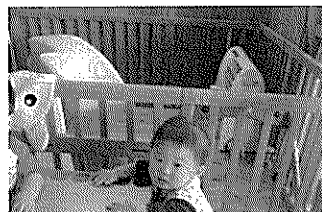
まだまだ小さい子ども達ですが、自分より小さいお友だちをいたわる姿、素敵です♡

『給食室』

毎月旬の食べ物に変身して子ども達の所に会いに行っています。

「スイカマンーまた来てねー!」次は何マンになってきてくれるの? と毎回楽しみにしてくれます。かっこいい戦隊ヒーローじゃないけど、みんなの中ではかっこいい食べ物ヒーローなのかな? そうだったら、嬉しいな!

みんな! 来月も待っていてね!



診療所

## JUNOの発達クリニック

細くて短い糸を撚り、  
長い糸を紡ぐ〜横系となり、世代交代に  
寄り添えるか〜

院長 川 口 孝 一

今年度大きな人事異動がありました。尾崎倅子理事長（以下、親しみを込めて「倅子さん」と呼ばせて頂きます）が退任し理事となり、藤野興一園長兼常務理事（同じく以下、「興一さん」が理事長に、田中佳代子院長（同じく以下、「佳代子さん」）が園長に就任する等、世代交代への第一歩が始まりました。興一さんは、児童福祉の天才的申し子だと思いますが、倅子さんが理事長だったから、思う存分仕事が出来たのだと思います。私も倅子さんにすいぶん救われました。倅子さんの武器（？）は、純情可憐な少女の様な笑顔です。会議が嫌な雰囲気になっても（私が言いたい放題爆弾発言しても）、倅子さんの笑顔でその場の嫌な雰囲気も不思議な事に一掃されるのです。診療所開設準備委員会での診療所の名

前を決める時、私は「鳥取ごども学園診療所『彩り』『彩り』は、勿論私自身への応援歌の一つであるミズチルの『彩り』です。ではだめですか？」と、真面目に提案したのですが、委員の皆さんはスルー。でも倅子さんだけが、ニッコリ笑って下さり救われました。他にも他の真面目な行事の中で私の場を弁えないジョークにも笑って下さいました。倅子さんが倒れられて入院された事がありました。したが、お見舞いに行った時もノーマイクなのにも少しも変わらぬ少女の笑顔で迎えて下さり、お見舞いに行ったら私の方が癒されて帰った事を今でも憶えています。つわもの揃いの学園執行部の中での理事長の責務、本当に大変だったと思います。お疲れ様でした。無礼ながらはまだお礼を申し上げていなかったのですが、この紙面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。佳代子さんについても語りたくて色々ですが、多くはまた別の機会にさせてもらおうとし、一言だけ。皆さんもご存知の様に、就任前から佳代子さんは心身共に筋金入りの細マッチョでしたが、就任直後から『子ども（OB、OG含む）を命懸けで守る』と云う『腹を括った怖』までのオーラが出てくるのを感じ、圧倒されつつ頼もしく思いました。そして興一さ

んの想いをしっかり引き継がれたと安堵しました。その事を佳代子さんに言ったら、マジ怒られました。抵抗ある所に真実あります。皆さん、安心して下さい。私はクリニック院長（雇われ院長です）である前に精神科医ですので、私のトリアージ（手当の緊急度に従って優先順位を付けること）では、運営・事務に關する会議より、個人の面接（診察）や個人の支援会議が上位にあるのですが、今どうしても優先して参加したい会議（園内勉強会）があります。その会議は興一さん主催の『木曜会』と云う勉強会です。この勉強会は、興一さんの最終講義（大学教授が退官時に行つ、退官記念の最終講義の様なもの）だと思っっています。勉強会の内容は、本田哲郎氏の『釜ヶ崎と福音』と云う本の輪読会です。この本の中に、興一さんが次の世代に引き継ぎたい真のキリスト者としての大切な想い（思想）が凝縮されているのだと思います。興一さんが最終講義にこの本の輪読を選んだ理由が、勉強会の回を重ねるごとに、非キリスト者の私にも少しずつ分かってきた気がしています。無神論者の私もほんの少し神に出会えた気がしてきました（錯覚、幻覚かもしれませんが）。この文章を書きながら、この瞬間のために、学園に来たのでは「と

想つ不思議な今感じています。

ところで洋の東西を問わず『不老不死の薬』を手に入れようとする物語は昔からありますが、もしも本当にそんな薬があったならば、（逆説的ですが）人類の歴史は長くは続かなかつたでしょう。なぜかと言つと、無常の世の中は刻々と変化しており、環境は常に変わって行っているからです。種は環境に合わせて変わっていかないとサバイブしていきません。だから成熟した人は、次の世代の発達途上の未成熟な小さき人に、命のバトンを託さなければなりません。組織も生き物です。鳥取ごども学園も、細くて短い糸を撚り、今日まで長い糸を紡いできました。そしてこれからも紡いでいかなければなりません。目の前の子どもたちのために。私たちクリニックのスタッフは、縦糸には成れない（成らない）かもしれませんが、福祉、教育、医療の縦糸を繋ぐ横糸に成って行けたらと思います。

追記：私が一昨年末までファンクラブに入っていた『中島みゆき』さん作詞作曲の『糸』の『ミズチル・桜井さんのカバー・バージョン』すごく良いですよ。是非聴いてみて下さい。



### 児童家庭支援センター「希望館」

チーフソーシャルワーカー  
岸 田 有 加

日々生活をしている中でストレスを感じない人はいないと思います。では、どのようにしてこのストレス社会に折り合いをつけるのかを最近、考えるようになりました。ネット検索では「大声で歌う」「紙に書き殴る」「身体を動かす」「思いっきり泣く」「壊す」「噛む」「こぼす」許せる友人と一緒に「すすり泣く」「部屋の掃除をしてみる」「自分に都合のいいように解釈してしまう」「瞑想する」とありました。また、「ちゅっ」と高いアイスを食べる、「花を買って帰る」「フルーツを食べる」「手帳」「自分のいいところ」をなんとなく書き出す、「好きな何かの写真を眺める」「とりあえず深呼吸」とも書かれていました。

心理療法担当 瀧 河 真 理

気持ちの折り合いをつけることは、生きていく上で必要なことだと思います。こつたけれど現実には難しいから、次の機会にしよう等、気持ちに折り合いをつける機会が大人にも子どもにもあるのではないのでしょうか。

来所してくださるお子さんの中で、その子なりの理由や気持ちがあるけれど、折り合いをつけることが難しいお子さんに対しては、一緒に折り合いをつける練習をしています。いらだちや怒りを表現することもありますが、それはお子さんの苦しみだと思います。お子さんの気持ちはそのお子さん自身にしかわからないものですが、その気持ちに寄り添い、少しでも理解させてもらいたいと日々思っています。

相談員 松 本 史 哉

早くも鳥取に来て半年が経ちました。殆ど知り合いのない土地に来ての生活に最初は不安もありましたが、色々な人たちに支えられ何とが生活にも慣れてきました。子ども家庭支援センターで働き始め、色々な家族の方が相談に来られました。お話を聴き、様々な発見と共

に、相談員としての対応ができていたのかとも思います。経験と知識を重ねて、今なら何ができるのかを振り返りながら支援を続けていきたいと思えます。まだまだ未熟ですが、皆さまの思いに寄り添う支援とは何かを考え、お役に立ちたいと思っています。

☆家族・子育てについての悩みや、子どもに関するあらゆることの相談に応じます。相談は無料です。

#### ◆電話相談

月曜日～金曜日 朝9時～夜12時

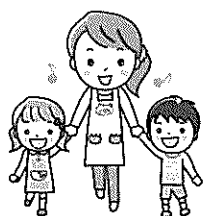
(緊急の場合は、休日、祭日、時間外も24時間対応します)

#### ◆来所相談

開所時間 月曜日～金曜日

朝9時～夕方6時

専門の相談員が対応します。



### 里親支援機関

里親委託等推進員

吉 田 信 彦

この夏、厚生労働省が発表した「新しい社会的養育ビジョン」では、今までよりもっと多くの子ども達を、里親が預かるといふ方向性が示されました。里親の人数と子育ての技術を、両方アップしなければいけないという課題こそあります。が、里親の一軒一軒のおうちが、目の前の子どもを一生懸命育てるといふことについては、これまで大きく変わりありません。どちらかというと、私達のような里親を応援する者の責任が重大だと考えています。もちろん私達も、里親も頑張るのですが、学園だよりをご覧の皆さんに、紙面を借りてお願いいたします。なにこそぞ、ご理解とご協力をください。預けられた子どもが地域で元気に育つためには、地域の方々の応援が不可欠です。

里親や施設など、保護を必要とする子どもを預かる取り組みの説明に伺わせてください。鳥取県全域どこでも、土日祝日夜間いつでも伺えます。地域・児童・教育・福祉に関係するお集まり、企業の

職員の方や団体の方等への人権教育や地域貢献推進の研修など、数分でも構いません。子どもを取り巻く背景には深刻なものがありますので、面白おかしくお話しすることはできませんが、預けられた子ども達が、里親や施設職員の温かな眼差しに包まれ、すくすく成長してゆく、心温まるエピソードについてはお伝えできません。

また、里親会にご支援ください。里親会は、里親同士が助け合い、学びあうグループです。里子のためにさまざまな活動をしていますが、活動資金は会員の自己負担が主です。まだまだ、たくさんの方の活動をしてほしいと考えています。なにとぞ、ご支援ください。活動の様子を伝える広報誌を、ご興味がおありの方に発送いたします。鳥取県の東部の部会は、ブログを運営していますので、是非ご覧ください。(鳥取県里親会東部部会ブログ [http://blog.goo.ne.jp/satooya\\_tr\\_ej](http://blog.goo.ne.jp/satooya_tr_ej))

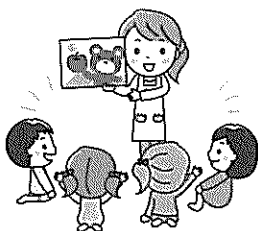
そして、あなたも里親になりませんか？特別な資格は必要ありません。心身ともに健全で、保護を必要とする子どもを育てることについての理解と熱意があれば、この取り組みに参加することができます。里親だけで取り組むものではありません。児童相談所、施設や市町村など、多くの関係機関と、里親の仲間が一緒に

す。子どもと一緒にいると、四季折々の変化や風景を、より鮮明に感じます。初めて雪が降るのを見たり、力いっぱい雪で遊んだりするたびに、世界の仕組みを知るときめきや、ダイナミックな興奮を、キフキフ輝く瞳を通して再び体験することが出来ます。未来の、希望の光を育む取り組みに、参加しませんか？

なにとぞご理解ご協力をください。お問い合わせは、里親会支援センター(電話：0857-2214221)まで。ご連絡をお待ちしております。



鳥取県里親会東部部会  
ブログQRコード



## 自立援助ホーム 鳥取フレンド

### 新しい制度の中で思うこと

鳥取フレンド  
寮長 内藤 直人

この度の児童福祉法改正の流れの中で、自立援助ホームで生活する入居者で学籍のある者、また支援の必要性がある者については、22歳の年度末までの支援が可能になりました。今年度からの制度

ですので、実際に制度を活用する入居者はいないのですが、当ホームでも20歳を超えて生活を続ける入居者がいます。近年の傾向として18歳以降での入居が多くなっており、今までの制度通りに20歳での退居を目標とすると、あまりにも短い支援期間になり、信頼関係を構築することは難しくなっております。そのため、今回の制度改正は当ホームにとってもありがたいことです。

また私が入職した10年前とは違って、ひきこもり・家庭内暴力などの経験がある入居者が増えています。以前はいわゆる「やんちゃな」子が多くいましたが、司法関係で受ける入居者も近年では、万引き等の小さな事件を起こし、居場所が

ないので当ホームに入居するといったパターンが多くあります。そういった入居者の多くは家庭の問題だけでなく、発達障がい・知的障がいの特徴を有する入居者がほとんどです。

その場合、自らの力だけで社会や職場に向かっていくことが難しく、まずホーム内での生活の気つきであったり、作業所利用をすることによって守られた環境で社会に向き合っていくことが必要になってきます。

そのため、たとえ15歳、16歳で入居したとしても、退居するまでには段階的な支援が必要になるので、どうしても時間がかかってしまうのが現状です。そういった実状からしてもやはり22歳までの支援は必要になってきます。

実際に高校1年生年齢で入居して、22歳になるまで生活していた入居者がいました。その子は、自立援助ホームで生活する中で自分が将来生活するところについていろいろな支援が必要だということを知り、現在は障がい者枠での企業就労をしながら、障がいのグループホームで生活をしています。

グループホームに入居するまでの流れの中では、20歳になる前に入居申し込みをしたにも関わらず、実際には約2年間空きを待つことになってしまいました。

自立援助ホームを退居して、次の支援につなげるのにも、やはり期間が必要になってきます。

一方で、支援期間が延びたこと、職員が甘んじているわけにはいきません。支援期間が確保されたことを有効に活用しながら、自立支援に努めてまいりたいと考えています。

### 自立援助ホーム 鳥取スマイル

鳥取スマイル  
寮長 田村 崇

早いもので、倉吉の関金から鳥取市に移転して、「鳥取スマイル」として再スタートしてから2年8か月が過ぎました。日々いろいろなことがありますが、当たり前の生活と日常を心掛け毎日を過ごしています。

10月現在、鳥取スマイルには、男子5名の若者（17歳から20歳）が、それぞれの課題や目標、夢や希望を持ちながら生活しています。生まれも育ちも違い、育った環境も境遇も違い、そして個性もそれぞれ違った若者が一緒に生活しています。そんな彼らと一緒に我々スタッフもそれぞれ個性があり、通勤しながら交

代で泊まり合い、ともに生活しています。そこには一つの小さな社会が在ります。自分と他人の考えの違いに悩んだり、これまで自分では当たり前だと思っていたことが、そうではないことに気付いたり。私たちは、いろいろなことをこの小さな社会（スマイル）の中で経験しているのだと思います。喜びもあり悲しみもあり、悔しいことだってあります。そして失敗することもあります。でも、スマイルはそれらを学ぶことができる場だと思っています。そしてその学びを次に活かしてほしいし、もっと欲を言えば若者にはそれを大きな社会で活かしてほしいと思っています。

今スマイルで出逢っている若者は、いっぱいいろいろなことを悩んでいるはずです。表面的にはそれらをなかなか出していませんが……。きっと自分に自信がないのだと思います。私たち大人（私自身）もそうですが、彼らにもっとも自分自身を知ってほしいと思います。そして、自分を大好きになってほしいと思っています。失敗したっていいー泣いたっていいー一歩一歩自分のペースで進んでほしいと思っています。

私自身、スマイルでの生活（通勤交代制）はもう10年以上になります。この「学園だより」を何度も書いてきまし

た。しかしその言葉たちは、誰かが言っていた言葉、どこかで読んだ言葉。決して私自身の言葉ではなかったと今感じています。これからはもっともっと自分の言葉を「心」を「伝えているかなければ」と思っています。

まだまだ足りない部分がたくさんあるかもしれませんが、縁あって出逢った若者たちとともに一歩一歩進んでいきたいと思えます。今後ともご支援と温かいまなざしで見守ってください。よろしくお願いたします。

### 新任職員のご紹介



補助員

山 根 くん子

9月から鳥取スマイルでお世話になっている山根くん子です。

一緒に料理を作りながら、寮生の皆様たちと、早く馴染めるように頑張りますので、よろしくお願いたします。



### 地域若者サポートステーション事業 うっとり・よなび 若者サポートステーション

今年度より、鳥取県の若者サポートステーション（呼称：サポステ）は、一つのサポステとして、活動することになりました。

若者サポートステーションは、働きたい・社会参加したい思いを持ち何かを始めたい！続けていける仕事を見つけたい！など、就職や進路選択を考えている若者（16〜39歳の若年無業者）とその家族を対象とした「働きたい」「働き続ける」「働けるようになりたい」を支援している就労支援機関として活動しております。

支援内容は、相談（キャリア形成相談、心の相談）を中心としてグループワークとブレジヨブ（職場見学・体験・講話）に加えて、鳥取県独自の支援メニューとして、社会人基礎力習得支援（通称：サポステ塾）を行っています。

このような支援内容を個々のペースで利用してもらうことにより、自分らしい生き方を見つけていただくことを目指しています。

利用される方には、求職活動、就職だ

けでなく、高校・大学などの進学、福祉サービスの利用など、自分らしい生き方を見つけて、それぞれの道に進まれます。また、希望に応じて、就職される方のアフターフォロー（定着・ステップアップ支援）も行ってあります。「就職」と言っ、一つの転機に、一緒になって考えていくことの大切さを、今後も驕ることなく、一人ひとりの個性やペース・

あなたを全力でサポートする場所。今の思いを話しに来てください。すべての問題解決は、そこから始まります！

就職率 61.9% (ポイント)

無料!

鳥取県地域若者サポートステーション

<p>鳥取 若 地 区 支 部</p> <p>鳥取県若狭総合庁舎1階</p> <p>開庁時間 10:00-18:00</p> <p>月-金 休(日・祝祭日)</p> <p>TEL/FAX 0857-21-4140</p> <p>鳥取県若狭総合庁舎1階</p>	<p>鳥取 若 地 区 支 部</p> <p>鳥取県若狭総合庁舎1階</p> <p>開庁時間 10:00-18:00</p> <p>月-金 休(日・祝祭日)</p> <p>TEL/FAX 0857-21-4140</p> <p>鳥取県若狭総合庁舎1階</p>
---	---

職場の人間関係って、なんとかなる？

働きたいけど、相手ができない人、ほしいな

就職率 61.9% (ポイント)

無料!

鳥取県地域若者サポートステーション

**新任職員のご紹介**

社会人基礎力習得支援員

**谷 口 朋 子**

はじめまして。とっとり若者サポートステーション 社会人基礎力習得支援員 谷口

シオン 社会人基礎力習得支援員 谷口朋子と申します。

ニーズを第一に大切に考え、サポートをしていきます。今年は、スタッフも変わり、我々サポートスタッフも、「転機」を迎えております。両サポートとも、年数を重ねる中で、多くの方と関わらせてもらい、徐々に周知されてきていると感じています。

しかし、現状に満足せず、より一層、当所の存在を必要としている若者や家族に届くよう、さらには「就職なら、まずサポートに相談しよう」と思い、来所していただけるよう日々、邁進していく所存です。

社会人基礎力習得支援員

**松 原 雅 子**

5月より、とっとり若者サポートステーション

定着ステップアップ支援員

松原雅子 定着ステップアップ支援員

5月より、とっとり若者サポートステーション

ことも学園の事は、以前より多少は知っていたのですが、とっとり若者サポートステーションの事は、全く知らない機関でしたので、日々、勉強から始めているところです。

これまでの仕事の中で、これも、若者に接する仕事はありますが、今回、とっとり若者サポートステーションで、若者と新たな気持ちで接していきたいと思っています。

相談業務は初めてなので、不安もありますが、一生懸命取り組んで参りますので、何卒よろしくお願い致します。

社会人基礎力習得支援員

**坂 口 泰 司**

副運営委員長

坂口泰司 副運営委員長

養育研究所のイメージをどのようにおもちでしょうか？「難しい議論をして現場とはかけ離れた事をしている。」「何をやっているか分からない。」「という声を聞くことがあります。また、近年若い年齢の所員の入会が減っています。私たちは今回、実際の現場で日々奮闘している若い職員が養育の相談、悩みの共有、交流の場になるように、また養育研究所に興味をもってもらえるよう定例研究会でとりあげることになりました。

今年度は「児童養護施設における家庭的養育とは」をテーマに養育に携わっておおむね3年を経過する職員を対象に3回シリーズで行っています。毎回、県内の児童養護施設、乳児院、児童心理治療施設、自立援助ホーム、大学生など20名くらいの参加があります。内容の1回目は大舎制の施設が小舎制に移行しての生活の変化、2回目は地域小規模児童養護施設の支援から見えてくる必要性（3回目は12月に開催予定）をそれぞれ施設現場の3年目の職員が発題をして、少人数



に分かれてのフリートーク、飲み物やお菓子をテーブルにおいて和やかな雰囲気です。初対面の方でも、良い緊張感の中、日々の自分の支障や考えを振り返る機会になり、新しい刺激ももたらさるるよう感じます。日々の食事のこと、入浴のこと等、日常の生活を共感し、笑い声が聞こえてくるグループもあり和やかな会になりました。若い方々が真剣に向き合っている姿を見て、嬉しさや頼もしさを感じました。これを機会に仲間が増えていけば嬉しいです。

テーマにした「家庭的な養育」の答えは出てきません。参加者からは、家庭的はどんなに努力しても家庭にはなれない。職員は親にも家族にもなれない。でも、施設だから家庭や家族に代わってあげられることはあるはず。大人の愛情を子どもたちが感じてくれるような関わりをしていきたい。そして、信頼できる大人と一緒に過ごした経験がその子の力になっていくと思う。その為に私たちは今後子どもたちに寄り添っていきたい。という思いが伝えられました。参加したみなさんがもちかえって今後の生活支援に繋がってくださることを期待しています。

【参加者の感想の一部を紹介します】

- ・家庭的VS施設的という考え方はないんだなあと思った。家庭であれ施設であれ大舎であれ小舎であれ、一人ひとりの子どもと向き合い、あなたは大切な人であると伝えたい。
- ・同じくらしい経験年数の職員さんが発題されている姿を見て刺激を受けました。
- ・他施設の様子、職員の日々感じていることを聞く機会も多くない中でこのような会に参加でき、物の見方、考え方がいろいろな視点で受け取ることができた。
- ・他施設、他職種の話聞くことができ、新たな考えや大事にしたい事を再認識できました。緊張もあつたが参加して心が熱くなる素敵な会でした。

障がい福祉事業  
**はまむら作業所**

活動をふりかえり

管理者兼サービス管理責任者  
山 岡 宏 樹

平成24年に開設した「はまむら作業所」も今年で6年目を迎えました。

今年、就労移行支援事業定員を6名、就労継続支援B型事業定員を14名と変更し、春より事業展開してきました。また、この8月より、支援員の増員を図り、支援体制の強化に現在努めているところです。

この数年の変化として、1つ、チーム・作業班で動く(全活動)という事が実現してきました。農作業、自主事業に伴う活動、企業の受託作業においても、チーム/作業班で動く事ができ、工賃等に反映する活動へ結びついているのを感じています。時間はかかりましたが、事業所全体として、働き続ける・作業する

為の基本姿勢(社会性、協調性等)が構築されつつある事を感じています。2つ、年々「個別支援の充実」を進める体制が整いつつあるのを感じます。各利用者さんの相談支援機関さんをはじめ、各種サービスの関係者みなさんの協力、また、法人内の事業所、専門職との関係も強化されつつあります。近年の受け入れ

実情に、10代のサービス利用、鳥取県でも学園OG・OB等の支援が増えてきている傾向があります。当事業所単独では困難な場合もあり、法人内外の医療・福祉支援体制がある事で個別へのアプローチも実現しており、支援者連携の重要性を痛感しています。3つ、地域の中での

活動・作業も増えています。今年初めて参加させて頂いた地域の清掃活動、地域のお祭りへの参加、気高エリアの方からの作業依頼、日々の地域の方との関わり、地域の専門職の方との関わり等も増えています。開設当初から大切にしている「地域密着の事業所づくり」、「地域社会を大事に、地域の方を大事に」、「地域のニーズに貢献する」という目標に少しずつ近づいています。

このように、就労支援事業を通して利用者の方々への支援のみならず、日々「変化」と「成長」を重ねながら活動しているのははまむら作業所です。これからも、法人理念や開設当初からの事業所理念である、どんな状況の利用者さんに対しても、「利用者さん一人ひとりにしっかりと向き合っ、その方の思いや考えに寄り添う事業所づくり」、「個々の就労や生活の目標を見つかけながら、確認しながら共に活動」を継続して参りたいと思えます。

最後に、かた苦しい「作業」、「事業」などささておき、日々、スタッフ、利用者と一緒に「ぼちぼち」過です、活動する事も大事にしつつ、共に努めてまいりますので、応援よろしく願っています。

退所児童等アフターケア事業

ひだまり

つながる

就労支援員 山根 潤子

ひだまりは、鳥取県内の児童養護施設等を退所した方や、退所を控えた児童へ生活支援・就労支援・自立研修・施設出張訪問（キャリアアカウンティング）等を行っています。

最近、ひだまり内での話によく出てくるのは、もうちょっと早くひだまりになれば、何か他にも協力できることがあったのではないかと…。という言葉。ひだまりにはどうしようもなく困ってかからつながらる場合が多いのです。ここで少しひだまりの取り組みについて紹介します。

毎年5月、鳥取子ども学園の子ども祭りに屋台を出店しています。メニューは、子ども達ほどのようなものを喜んでくれるのだらうと、購入しやすい金額がいいよね、と想像しながら今年は『ぶちパンケーキ』に決めました。参加することで子ども達から別の機会に「ごちそうにいた人だ！」と顔を覚えてくれてい

る子もいます。

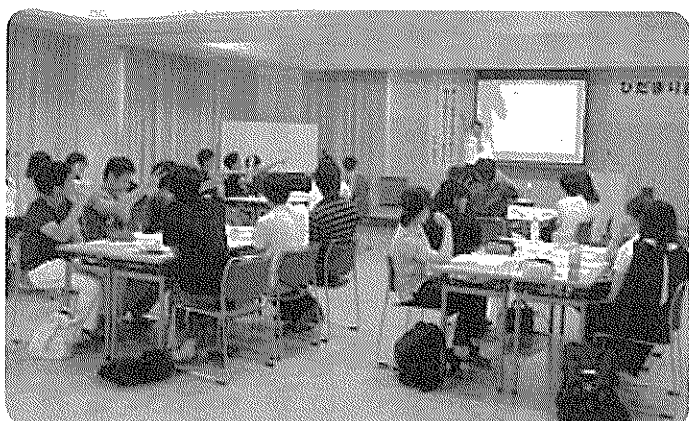
そして、7月には入所中の高校生を対象に、自立研修『楽しい社会人生活に向けてー知っておきたいマナー&モラル』を開催しました。開催に向けて、各施設から担当職員が集まってもらい検討会を開くなど現場の職員さんの声を聞き研修の充実にも力を入れました。

当日は、施設の高校生・職員、児童相談所の職員、スタッフを含め総勢60名近くが集まりました。『報告・連絡・相談』についてカードを使ったワークや2人ペアになってコミュニケーションに関するロールプレイングをする研修を通して、『あいさつは「質より量」と言う言葉が印象に残った。』いままでは上手に断ることができなかったものでこれからはポイントを押さえていきたい。』といった高校生の感想がたくさんありました。9月には、OB・OG・ひだまり職員の交流会「そは打ち体験」、10月には光徳子供学園の子供祭りに出店参加、特別企画ひだまり自立研修「はたらくセンパイ（OB）トークショー」を開催、11月には卒業生記念品製作、12月はもちつきなどつながる機会を企画しています。

ひだまりは、施設退所後に何か困ったことや相談したいと思ったときに思い浮かぶ一つの候補であり、退所前に社会へ

旅立つための橋渡しとして皆さんの役に立てるよう、早いうちから施設職員や関係機関の方々、地域の皆さんとつながりを持つことも大切だと考えています。社会的養護の中で育った方に寄り添い支え、明日への希望をつなぎ、本人が目標を見つけ行動を起こしていくお手伝いをできたらと考えています。

ひだまりは、平成30年度に開所10周年を迎えます。大きな節目を控え、今後、鳥取県内全域の支援を充実していくことができるよう新しいビジョンも掲げ、そのための準備にも取り組んで参ります。今後とも、皆様のご指導・ご協力の程よろしくお願いたします。





## 会費・寄付金は下記へお願いします

鳥取こども学園後援会事務局：〒680-0061 鳥取市立川町5-417 鳥取こども学園内  
☎(0857)22-4206・21-9551 FAX23-0242

振込口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 藤野興一

振込口座：郵便振替 01490-9-9106 山陰合同銀行鳥取営業部 普通 3422812  
鳥取銀行本店営業部 普通 7645611

### 【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発刊しています。

同封していません寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考慮のことですので、ご理解いただきますようお願い致します。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。